

四月は特に楽しい雰囲気と厳しい雰囲気のメリハリを

大阪教育サークルはやし 宮本哲

「当たり前ではない」

昨年度、全国のほとんどの学校が新型コロナウイルスのために三月二日から休校になったのではないのでしょうか。私は五年生の担任だったのですが、インフルエンザのため二日間の学級閉鎖をしている間に阿部首相から休校の要請があり、クラス全員が集まることなく、さびしい気持ちを残したまま、学期末を終えてしまいました。子どもたちが登校してくるのが当たり前だと思っていました。しかし、それは当たり前ではないことを改めて感じさせられました。だから、当たり前を当たり前と思わず、一日一日、大切にしなければならぬと強く思いました。この気持ちを四月からの学級作りにつなげていきたいと思っています。

「春休み中の学級作り」

春休み中によっておくこととして教室の掃除や教材研究、テストやドリルなどの教

材採択など様々なことがあります。学級作りとしてやっておいた方がいいのが、子どもの名前を覚えることです。初対面なのに、自分の名前を呼ばれたら誰でも驚き、嬉しいものです。今年の先生は、ちょっと期待できるかも、と思ってもらえればラッキーです。そういったことが積み重なって子どもたちとの信頼が構築されていきます。

名前の覚え方として私は、まず、名簿順に覚えます。だから子どもたちの席順も名簿順に並べておきます。そうすれば、顔を見ながら、名前を呼ぶことができます。さらに時間があれば、かけ算の九九と同じように逆から言える、ランダムに言えるようになっていくことが望ましいです。

「ミニゲームで学級作り」

新しいクラスになった時、子どもたちは、友だちできるかな、どんな先生かな、など期待と不安が入り混じった状態です。

そして子どもたちは、先生の言葉や行動をよく観察しています。この人は、信頼できる先生なのか見定めています。

まずは、先生という子どもにも認めさせる必要があります。そのためには子どもたちに気に入らなければなりません。子どもたちは、ゲームが大好きです。だから、四月は他の月より多くゲームを行います。そして楽しい雰囲気を作っていきます。そうすると、子どもたちは楽しい雰囲気を作ってくれる先生を認めるようになっていきます。ゲームといっても一時間の授業をすべて使うわけではなく短い時間（一〜十分程度）のミニゲームを何度かしていけばいいのです。

ゲームをすることで子どもたちは、教師とつながるだけでなく子ども同士もつながっていきます。さらにゲームをするためには教師の指示をしっかり聞かないと楽しくゲームをすることができません。だから子どもたちは主体的に聞く習慣がついてきます。そしてゲームの中でルールを守らないと楽しくないことを学び、ルールを守る大切さを実感していきます。ここでいくつか

のゲームを紹介します。

「〇〇ウォッチング」

このゲームは、誰かの言動をよく見るとい
うというゲームです。

はじめは先生と子どもたちをつながるた
めに私の言動をよく見ることを仕掛けます。

例えば、右手の服の袖だけをまくしあげ
て教室に入り、子どもたちの前に立ちます。
そして「おかしなところないですか？」と
聞きます。すると子どもたちは、笑顔にな
りながら、すぐに答えを言ってくれます。
次の日も同じようなことをします。左手の
服の袖をまくしあげたり、右足のズボンの
すそをまくしあげたりします。他にも後ろ
向きで教室に入ったり、スキップで教室に
入ったりします。少しずつ変えるだけで、
子どもたちは、楽しみながら先生をよく見
るようになります。

次に子ども同士をつなげていきます。ま
ず、教師が一人の子の良い所を見つけます。
(はじめは、今まで悪いことをして先生に
よく怒られていた子の方がいいと思いま
す。)次の日の朝、その良かったところをク
イズにして出します。「昼休みにトイレのス

リップを自分の使ったものだけでなく全部
きれいに揃えていた人がいます。誰でしょ
う。」と聞きます。正解が出たら全員でその
子に大きな拍手を送ります。

そういうことを何日か続けていると、子
どもから、「〇〇ちゃんがこんな良いこと
(よい言葉使い)していたよ。」ということ
を言ってきたり、一日の振り返りのノート
に書いてきたりします。今度はそれを使っ
て、子どもに私と同じようにクイズを出題
させます。終わりの会の時に、一日三人ま
でと決めて発表させると、いい雰囲気です。
「さ
ようなら」ができます。

「二十の扉」

このゲームは、先生が頭の中に思い浮か
べたものを当てるゲームです。先生は子ど
もたちの質問に「はい」「いいえ」でしか答
えません。そして、二十の質問が終わった
時に子どもたちの答えが全員一致していた
ら子どもたちの勝ちとなります。このゲー
ムは、質問する力がつくと同時に先生の答
えや友だちの答えをしつかり聞くという力
もつきます。友だちの質問をしつかり聞い
ていないと、同じ質問をしてしまうことが

あります。毎年はじめのうちは、何人かし
ます。さらに、途中から答えが思い浮かん
でいる子と思い浮かんでいない子がいる状
態になります。思い浮かんでいる子は、思
い浮かんでいない子に何とかヒントになる
ような質問を考えます。全員で答えを一つ
にするこの難しさを体験するとともに仲
間のことを考えることも体験できます。

「厳しい雰囲気で学級作り」

厳しいといっても、いつも怒鳴ったり、
叱ったりしているわけではありません。集
団生活をしていく中で当たり前のことがで
きていなければ、毅然とした対応をしてい
きます。

- ・あいさつは、自分から大きな声で言う。
- ・朝学習は、黙って時間通りに始める。
- ・教室移動なら黙って三十秒以内に並ぶ。

(並ぶ時間は、子どもの実態によって変え
ていきます。)

- ・給食の用意は、十五分以内にする。

- ・掃除は黙ってする。

できていなければ、やり直しや注意を何度
もします。できていれば誉めます。この繰
り返しが楽しい学級作りには欠かせません。